Un petit cafe de Kobe 2003 その④

ホンモノの岩茶が飲めるカフェ

信時　哲郎

神戸岩茶荘　fan fan

神戸市中央区布引町二ー二ー十二

TEL　078（262）8103
営業時間　11：00～21：00
定休日　火曜
URL　http://www.gancha.com

子供の頃から中国茶はたくさん飲んでいるはずだった。しかし一九九八年、旅行先の中国・大連でお土産用のお茶を買おうとした時、羅正隆さん（35）の人生は大きく変わることになった。福建省の出身だという店の人が「私の住んでいたところでは、こんなお茶を飲んでます。」そう言って岩茶を飲ませてくれたからだ。こんなに強い香りのお茶を、今まで自分は飲んだことがない……

フルーツの輸入業務に携わっていた羅さんは、それから岩茶に関する文献を読み漁り、翌年、福建省の武夷山に向かった。

この山の岩肌にへばりつくようにして自生しているのが岩茶。皇帝のお茶として珍重され、樹齢数百年と言われる原木から取れるお茶は、10グラムでも一〇〇万円はすると言われている。山麓部で作られたものも半岩茶と呼ばれ、なかなか手に入らない。

羅さんが武夷山に辿り着くと、たくさんのお茶屋が並び、どこも「うちはホンモノだよ」と呼び込みをしながら店内に招き入れようとする。何軒かに立ち寄って試飲させてもらったが、大連の感動を再現してくれるようなお茶には出会えなかった。なかば諦めかけた頃、他の店とは違って、派手な呼び込みを全くしていない店を見つけた。とりあえず試飲をさせてもらったところ、あの大連での感動が蘇ってきた。店の人は、次から次にお茶を出してくれたが、そのどれもがすばらしいものだった。「これはとんでもないことになるぞ」。羅さんは、この時、そう思ったという。

それから日本に戻って、〈岩茶〉と呼ばれているお茶を買い集めてみたが、立派なのは値段だけ。大連での感動は味わうことができなかった。そこでホンモノを手に入れるにはこの方法しかない、と思って武夷山で見つけた茶屋と代理店契約を結び、二〇〇〇年十月には、カフェを開店することとなった。

南京町からも三宮駅からも離れ、最寄の新神戸駅からも徒歩五分という立地だが、バス通りに面していることもあって、「気になったので寄ってみた」というお客さんが訪れることが多く、リピーターも増えてきたという。

店内のインテリアや音楽には、西洋の要素が取り入れられ、老若男女、洋の東西を問わずにくつろげる雰囲気となっている。それでもお茶一杯に八〇〇円は高いという人がいるかもしれないが（もっとも極上の中国茶は急須で十数煎飲んでも、ほとんど味は劣化しない）、一度、店を訪ねてみれば、お茶の味と香り、そしてお菓子のどれもが絶品であることに気づくだろう。

「最近になって、岩茶と陰陽五行説の関係がわかってきたんです。お茶に付けられた名前の一つ一つにもそれは影響していて、知れば知るほど奥行きの深さを感じますね。」

青・赤・黄・白・黒に大別されたお茶は、色ごとに効能が異なり、予防薬としてさまざまな効力を発揮するのだという。

ブームといわれる中国茶だが、ファッションが先行している感じは否めない。そろそろホンモノの岩茶を使った、ホンモノの中国茶の世界に足を踏み入れてはどうだろう。中国茶が好きだという人であればあるほど、かつて羅さんが大連で感じたのと同じショックを受けるはずである。

岩茶（青赤黄白黒）　＋　お菓子　800円～
青・・・百歳香、正岩水仙
赤・・・・小紅袍、状元紅
黄・・・・半天腰、肉桂
白・・・・白牡丹、白毛猴
黒・・・・夜平香、単叢水仙　など

店内ではお茶や茶器の販売もしている。

この店をバスから見た覚えはありませんか？

筆者宅の茶壷（チャフー）もここで買ったもの。